

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・図形の領域において、一部目標値を上回った。
- ・思考・判断・表現の観点の問題で目標値近くとれている問題が数問あった。
- ・

(2) 課題

- ・どの観点においても目標値を下回っているものが多い。
- ・計算を苦手とする生徒が多い。
- ・記述をすることが苦手である生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	分数を用いた計算およびデータの活用の理解度が低い。	/	/
第2学年	データの活用については目標値に近いが、特に数と式および関数に関しては理解度が低い。	「変化と関係」の領域は概ね目標値に達しているが、「数と計算」の領域は理解度が低い。	/
第3学年	関数に関わる部分や文章から立式を行うことの理解度が低い。 また図形の証明を著しく苦手としている。	立式を行うことや文字式などを用いて説明をすること、いくつかの数量の関係を考えることを特に苦手としている。	「基礎」「活用」ともにすべての観点において目標値を下回っている。しかし、平面図形では一部目標値を上回るとの結果が得られた。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数や、平面図形、データの活用に関する問題において理解が不十分である。	図形の面積やデータを用いた説明を苦手としている生徒が多い。	図や表から正しくデータを読み取ったり、活用したりすることが苦手である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、関数の領域において、目標値より大きく下回る。	1次方程式の立式と説明をする問題について正答率が特に低く、苦手としている。	基本的な内容について、自己調整学習ができていないため、定着が図れていない生徒が多い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次関数において、理解が不十分であるといえる。	連立方程式の文章題での立式や、図形の証明を苦手としている生徒が多い。	箱ひげ図やグラフから正しくデータを読み取ったり、活用したりすることが苦手である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数に関する正しい計算方法を再度確認し身に付けさせる。また、最頻値や中央値の違いについて理解をさせる。	円を用いた面積の計算やデータを用いた説明をする際に重要な視点を確認し、理解を深める。	間違えた問題には、今後間違えないようにするためのポイントを書くことで、自己調整学習ができるようになるよう促す。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、関数を特に苦手としているため、知識の定着を図る	式を立てる意味を考えさせると共に、論理的に説明をする練習を行う。	様々な課題に取り組みせることで、ねばり強く取り組む姿勢を育てる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1次関数における知識・技能として「座標を求める・式を求める」という演習を行い、技能の定着を図る	文章から立式する練習を行い、関係を表す式を表せるように技能を深める。また、図形の証明について、理解を深める。	間違えた問題には、今後間違えないようにするためのポイントを書くことで、自己調整学習ができるようになるよう促す。